



総合学園 <中央大学の附属学校>

中央大学の附属学校は高等学校が4校、中学校が2校。今回は中学校・高等学校を擁する中央大学附属中学校・高等学校と中央大学附属横浜中学校・高等学校を紹介します。中央大学の伝統を重んじた共通の目的を持ちつつ、それぞれが独自の教育方針のもと特色ある取り組みを行っています。

中央大学附属中学校・高等学校

本校は今年で創立108年目を迎えます。伝統ある中大附属も、その時代の状況に合わせて、さまざまな変化を遂げてきました。2001年の共学化、2010年の中学校開校は、こうした変化の最たるものだったかもしれません。

しかし、伝統校だからこそ、変わらないところもあります。それは「自主・自治・自律」の教育理念です。今では小金井のキャンパスの中を、女子生徒も中学生も歩いていますが、先輩たちから受け継いだ「自由」な環境を損なうことのないように、中学生は中学生らしく、高校生は高校生らしく、一人ひとりの個性が尊重される学校生活を謳歌しています。

そんな中附にもまたひとつ、変化がありました。それは今年度の高校1年生より導入された新カリキュラムです。新カリキュラムの大きな目玉は、高校2、3年次に設置された「教養総合」という本校独自の科目だと考えています。この科目では、世界の諸問題や小金井市の抱える課題について、生徒たちが関係機関や地域と連携し、協同して解決に向けて活動していく授業となります。

「教養総合」は次年度から始まります。先行き不透明な社会状況の中で活躍できる生徒たちを育成するために、卒業生の皆さまにも積極的にご協力いただければ幸いです。

<address> 〒184-8575 東京都小金井市貫井北町3-22-1
<最寄り駅> JR中央線「武蔵小金井」駅・西武新宿線「小平」駅



中学校の授業時数は公立中学の約1.2倍。学習指導要領と比較して中学3年間で630時間多くなっています。体験型学習の1つ、「Project in English」では身近なテーマをグループで調査して英語で発表を行い、国際社会で求められる力を養っています。



中学校会(左)は、レンガ調のタイルと白い壁が調和した校舎。高校敷地内に建つ1号館(右)は、延べ床面積約8,000㎡、7階建ての中附のランドマーク的な建物。学びとコミュニケーションのための施設。

中央大学附属横浜中学校・高等学校

大学附属の一貫校としての特徴を活かし、将来を見ずして6年間を充実した人間形成に充てます。学期留学制度、ニュージーランド提携校の生徒による本校訪問・本校生徒宅でのホームステイの受け入れや、シンガポールへの研修旅行をはじめとする国際理解教育の展開による英語教育の充実、人間力の形成、社会力、発信力の育成を行います。

また、専門の理科助手によるサポートや充実した設備のなかで行われる理科の授業、教員による継続的なノート添削、模型や映像を使った数学の授業等、理数教育を通じて論理の破綻なく、原因から結果までを解き明かす論理的思考力を育成し、文理の志望にかかわらず、生涯にわたって求められる人間力を育てます。

近年の取り組みとしましては、本校の創設者のひとりである渡邊たま女史ご一族からの寄付により創設した「渡邊たま奨学基金」の一部を、国際理解教育に活用しています。具体的には中学2年生の林間学校にて「English Summer Camp」を実施し、ネイティブの先生方とさまざまなアクティビティを通して英語でコミュニケーションを行っています。また、高校1年生のオリエンテーション合宿にて英語コミュニケーション講座を実施し、本校生徒と留学生でグループを作り、英語で自己紹介や質問、自分の国の文化の紹介などをします。アフリカや東欧等の英語圏ではない地域出身の留学生も多く、それぞれの出身地域についての話や日本で学んでいる内容を聞くことができ、日本や海外の文化の理解を深めるだけでなく、海外で学ぶ意味なども理解することができます。

<address> 〒224-8515 神奈川県横浜市都筑区牛久保東1-14-1
<最寄り駅> 横浜市営地下鉄 ブルーライン・グリーンライン「センター北」駅



中学2年生 English Summer Campの様子



高校1年生 英語コミュニケーション講座の様子

中央大学附属中学校・高等学校木川裕一郎校長と、中央大学附属横浜中学校・高等学校袴田兆彦校長の対談「大学附属の中高一貫校だからこそ可能な教育がある」が、日本経済新聞電子版「注目の中・高一貫校通信」(ps.nikkei.co.jp)にて掲載されておりますので、ご覧ください。

